

マイスターだより

川西町立小松小学校
令和7年11月10日(月)
文責：情野 夏美

仙台白百合学園小学校に行ってきました！

土曜日に、仙台白百合学園小学校の第6回公開研究会に参加してきました。SSPICA（スピカ）という、2教科（1教科）の単元内自由進度学習の様子を参観しました。学んだことや生かせそうなことがありましたので、ご報告させていただきます。授業中の写真撮影ができませんでしたが、掲示物等の撮影はできました。後ほど、指導案、私のメモとともに回覧します。文章が多くなってしまいましたが、ぜひ、最後までお読みください。また、授業の内容を詳しく知りたい方がいらっしゃいましたら、いつでもお声がけください。

テーマ

自ら計画する 自ら選ぶ 自ら課題を見つける

自己調整しながら学ぶ子どもを育む

SSPICA（スピカ）とは…

明確な目標をもって、計画し、一斉授業などで得た知識や技能を選び、使っていく。実行していく中で、形成的評価を通じて、つまずきやその原因を把握し、修正・改善していく。

- 基本の形は、2教科（1教科）の単元内自由進度学習（2教科同時進行）
 - 自己調整しやすい、個人差があることで他の子の学びを参考にしやすい、他の子を気にすることなく自分で学びを進めることができる
- ・ 2年目 全学年で実施
- ・ 組み合わせる単元や教科は様々 子どもの実態によっても変わる
- ・ 基本となる3つの型のベストミックス
 - ①教師主導型 ②自己選択型 ③自己決定型
- ・ SSPICA を行う上では、一斉授業の精度を上げていく必要がある。
- ・ 時数は、指導書に示されている時数に \pm している。
教師にも子どもにもゆとりを持たせる必要があるため。
- ・ 2教科同時であるが、2人の教員が1つの教科を担当し、担当する教科を行っている子を中心に見取る。

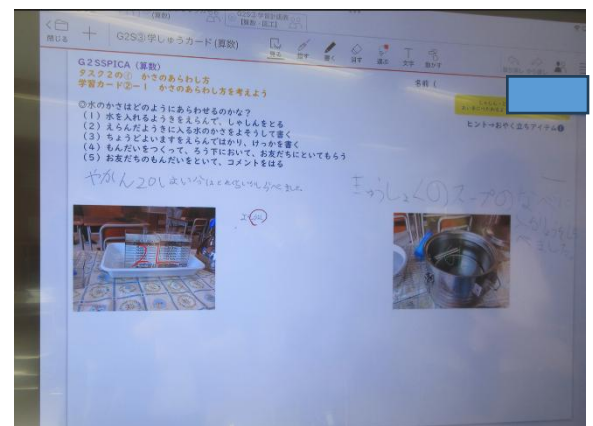
1、2年桜組 算数「水のかさ」 図工「かぶってへんしん」

【授業の流れ】

- ・ iPad で、自分の今日のやることを確認する。
MetaMoji というアプリ
- ・ 好きな場所、好きな人と自由に活動を行ってよい。
- ・ 活動を記録するワークシートに、写真を張り付け、振り返りを書く。

【自評より】

- 図工→ 子がのびのびとできるように材料をたくさん用意した。



- ・見本の掲示をすることで、自ら進んで活動できるようにした。
 - ・振り返りや片付け、時間配分は子どもに委ねた。
- 算数→
- ・進まない子にどうかかわっていくかが苦労している。
 - ・一時間で机間指導を何周も行い、誰が何をしているのか把握する。

【参観した感想】

- ・自分のペースで、好きな場所で、自由に活動できるのがいいと思った。
- ・どの児童も生き生きと学習を行っていた。学習に向かう姿が前向きだった。
- ・図工も算数も材料が豊富に用意されていて、学習の幅が広がると感じた。
- ・先生は、必要以上に教えることをしていなかった。「今何しているの?」「これはどういうこと?」など、児童に聞く場面が多かった。
- ・児童は巧みに iPad を使いこなしていた。書くのは、手書きだった。
- ・授業の終わりも先生は声をかけず、自分たちで終わるようにさせていた。が、時間を過ぎてても没頭する児童が多かった。いいのか、悪いのか…。

2、5年桜組・菊組 算数「四角形や三角形の面積」 社会「自動車を作る工業」

【授業の流れ】

- ・全員に共有されている振り返りを見て、いい振り返りを見つけて発表する。
- ・2年生と同じように、好きな場所で、一人でも友達とでも自由に学習を進める。
- ・自分の教室に戻ってきて、振り返りを打ち込む。

【自評より】

- 社会→
- ・教科書、資料集、サイトなどの情報がたくさんあるので、自分たちで進めていけそうだと思ってこの単元にした。
 - ・大事なところを抑えているかを教師は見取っていく。
 - ・振り返りを通して、できることや方法を共有する。
 - ・子どもたち同士で解決できるようにつなげていく。
- 算数→
- ・最初に一斉学習で、三角形と二等辺三角形の面積を求めた。4年生で習ったことを生かして問題を解決できることを確認した。
 - ・答えは一切掲示していない。自分たちで答えを導き、何人もの児童と話すことを通して、解決してほしいため。
 - ・児童同士で解決する姿を目指している。

【参観した感想】

- ・授業の最初に、前時までの振り返りを確認することで友達の学び方を知ることができて、いい時間であると感じた。また、振り返りが生きている授業になると感じた。
 - ・学びのガイド（学習の手引き）やワークシートはすべて MetaMoji というアプリに入っていた。2年生よりもさらに様々な機能を使いこなしていた。
 - ・切り貼りできるように、紙（アナログ）も準備されていた。自分で使いたいものを自由に選択できるのはいい。
 - ・MetaMoji というアプリは、リアルタイムで児童の手元の活動記録が分かるようになっていた。先生は、それを見ながら机間指導をしていた。目的からそれてしまっている児童に対して、適切なアドバイスをし、軌道修正してあげていた。
 - ・答えを教えない、掲示しないということは不安があるなと感じた。確かな学力を身に付けさせるためには必要なことではないかなとも感じた。
- 何人かの先生から質問の声が挙がっていた。

3、パネルディスカッション「未来に生きる子どもたちに今必要な学びのカタチ」

佐藤氏

- ・のびのび学習するための環境づくり
- ・もくもく、ひたすらに 活動と時間の保障が学びにつながっている
- ・一人でも仲間とでも 今日の学びと目標達成の関係を自分で作る
- ・同じグループ内でも取り組む教科が混在している 隣の活動が調整の指針、メタ認知の機会を生んでいる
- ・4W1H→面積が広いと自己決定度が高い
- ・振り返りの共有の大切さ

稲垣氏

- ・自分で学んでいるという感覚は忘れない
- ・学びを積み上げるための最低限の指示
- ・アイディアを広げる、支える場 材料や見本コーナー
- ・学びのガイドブックに戻って学習を進める姿 軌道修正もできる
- ・先生が気を付けること
先回りをしない、作りこみすぎない、ルーティン化しない、選択肢をたくさん作る、個と協働のバランス、安全性、環境面
- ・どうやってはじめるか→実践を見て聞いて、できることから始める
教師みんなで話し合う、学びあう

4、全体を通して

- ・やはり、準備に時間がかかりそうだった。しかし、2人で教科を分担することで、専門性も上がり、効率が良くなると感じた。2クラスある学校ならではの取り組みである。白百合学園小学校では、毎年新しいものに取り組んでいるようであるが、素晴らしい教材や資料等を残して、次につなげていくことで、アレンジもきく上に、負担も減ると思った。
- ・掲示物が豊富で、効果的だった。児童の学びの足跡が分かる掲示もあり、学習に生かせるような環境作りができていた。
- ・机間指導中の教師の役割が重要であると感じた。子どもたちが自分たちで学びを進め、深めていけるようにファシリテーター的な役割をすること大事だと改めて感じた。
- ・子どもたちは、自分で学習を進めることができることは好きなんだと見ていて感じ取ることができた。
- ・ICT 機器を使って振り返りを共有することで、友達の学びの足跡が分かり、振り返りの書き方も参考にできるので、いい方法である。
- ・問題の解決方法でも振り返りでも、他者参照することはこれから大事となってくと感じた。まねするというマイナスな捉え方ではなく、友達の学びを自分の学びに生かすというプラスの考え方が重要である。
- ・準備をするのは大変であるが、デジタルとアナログの物を用意することは大切であると感じた。児童が好きな方を選択できるのはいい。
- ・私自身、一人で行う、友達と行うことはさせていたが、場所を自由にさせていなかった。自分の落ち着く場所で学習するというのもありだなと思った。
- ・どのクラスも授業の終わりが伸びていた。没頭するあまり、時間が見えなくなってしまう自由進度学習のデメリットでもあるかなと感じた。どんな理由があっても、時間は守らせたいなと思った。子どもたちも教師も。